

音楽史におけるロマン主義時代の特徴

- ・強烈な個性と主観性——自由主義、感情の尊重、規範よりもオリジナリティー
- ・無限への憧れ——過去・未知・異国的なものへの憧憬、理想主義的現実逃避
- ・器楽の優位性——純粹器楽の価値、絶対音楽の理念
- ・音楽と他芸術の融合——詩的音楽、標題音楽の理念
- ・ヴィルトゥオーソの興隆——名人芸的演奏家が出現、作曲家と演奏家の分化へ
- ・ブルジョア市民階級の台頭——演奏会の日常化、商品としての音楽
- ・出版産業、音楽ジャーナリズムの興隆——楽譜出版、音楽雑誌、批評家の誕生
- ・歴史主義の思潮——バロックやルネサンス音楽の発掘、『音楽史』や伝記出版

「ロマン派」の音楽的特徴

- ・様式、形式、ジャンルの面ではウィーン古典派から多くを継承
- ・作品の統一性重視（動機的統一、有機的循環、各楽章の連関性）
- ・短調作品の増加、遠隔調への転調、半音階的和声法の発展、管弦楽法の複雑化

ロマン主義時代 ⇨ 19 世紀

- ・19 世紀全体を「ロマン主義」の概念で覆うことの難しさ

世紀後半には、ロマン主義的音楽の範疇には入らない音楽現象が多数出現

19 世紀前半——1848 年（革命の年）の分岐点——19 世紀後半